

重富士狀の火山にして、本邦には他に比類を見ず。色丹島は國後の東方にある小島にして、住民は先年北千島の土人を移住せしめしものなるが、蠢愚にして漸次減少の傾あり。島内の斜古丹は天然の良港あり。土人は北千島固有の種族にして、自アイノと稱し、アイヌと相嫉視すと雖、容貌言語等の間に少しも異なる處なし。其の地もと露領たりし時より、希臘教を奉じ、今尙熱心に信仰せり。衣類は、エトピリカと稱する鳥の皮及び金巾等にて造りたる粗服を纏ひ、粗製の麵包と魚獸の肉とを併食す。家屋は地下に五六尺の穴を穿ち、流木を用ひて支柱を造り、草葉を以て屋根を葺き、其の上泥土を蔽ひて平地に接せしむ。(土人の現存する者六十餘人)

擇捉は諸島中最大なるものなり。紗那は支廳の所在地にして、小學校、鑛詰製造所等の設あり。漁期には船舶の出入繁し。占守は本邦の極東にして、露領カムチヤツカを隔つること僅に七里、英國ロンドンと略緯度を均うすれども、氣温は彼より甚低くして、十一月より翌年五月まで降雪を見る。然れども人身を傷害するに至らざるのみならず、平地は耕牧に適す。樹木は矮小にして到底建築材に用ふるに足らざれども、而も薪材に供して餘りあるのみならず、沿岸は他の諸島と同じく流木の漂着夥しきを以て、移住者の便寡からず。帝國の極北阿頼度島は占守の西方にあり。島形恰富士山に似たり。本區は海産の利大なるのみならず、礦業も亦有望なり。

第三章 總論

海岸

◎海岸 吾が國の海岸は、全長七千四百里に餘り、之を國土の總面積に比すれば、延長甚大にして、他國に其の類を見ざる處なり。其の内南北二域に屬する臺灣、十州二島の沿岸は、之を中域に屬する三大島の沿岸に比すれば、延長頗短く、屬島も亦寡し。臺灣は、沿岸最簡單にして、獨東北部のみ稍屈曲に富み、此處に基隆、蘇澳の良灣あり。十州は、出入稍多く、東部に根室、厚岸の二小灣あり。西部は一大半島をなし、更に積丹、渡島の二半島を斗出し、此處に内浦灣、函館、小樽の諸灣あり。中域に屬する三大島の沿岸にて、屈曲の最寡きは、四國にして、最多きは九州なり。九州

に於て其の東岸は出入多からざれども、北及び西の海岸は頗錯雜を極め、海上には小嶼頗多し。北岸なる日本海沿岸には、博多、唐津、伊萬里等の諸灣あり。西岸なる東海沿岸には、大村灣、有明海(筑紫海)、八代海等の諸海灣あり。南部に大隅、薩摩の二半島を斗出し、鹿兒島灣を抱けり。本州の沿岸は、九州に亞ぎ最變化多く、特に太平洋沿岸は半島、海灣の數甚多く、紀伊、志摩、知多、渥美、伊豆、房總等の諸半島及び伊勢海、知多、渥美、駿河、相模、東京、仙臺等の諸灣あり。瀬戸内海沿岸も亦小出入に富み、海上には小嶼夥し。日本海沿岸は、全く之に反し、一帶平直にして出入に乏しく、僅に島根能登、男鹿島の諸半島と、若狹、富山、七尾の諸灣とを有するに過ぎず。此の他津輕海峽に陸奥灣あり。

本邦の海岸は此の如く變化に富めるを以て、從つて到る處
 良港灣に乏しからず。之れ吾が邦の交通上、貿易上、國防上、
 優勝の地を占むる所以にして、文明富強の一大要素を備
 へたるものなり。但、之を利用するは人にあり。我が海國民
 たるもの大に之が利用の道を講せずして可ならんや。本
 邦著明の港を擧ぐれば左の如し。

オコツク海沿岸

網走

太平洋沿岸

根室・釧路・室蘭・荻濱・横濱・横須賀・浦賀・清水・武豊・四日市・鳥羽・

浦戸・宇和島・細島・油津・

東海沿岸(臺灣海峡を含む)

佐世保・長崎・口ノ津・三角・鹿兒島・蘇澳・基隆・淡水・鹿港・安平・打

河湖

狗・媽宮・

日本海沿岸(津輕海峡及對馬の西岸を含む)

小樽・江差・函館・大湊・青森・船川・新潟・夷・伏木・七尾・敦賀・舞鶴・宮
 津・西郷・境・濱田・唐津・博多・嚴原・竹敷・鹿見・佐須奈・

瀬戸内海沿岸(大阪灣を含む)

大阪・神戸・尾道・糸崎・吳・宇品・下ノ關・門司・高松・丸龜・多度津・三
 津濱・

●河湖 吾が日本群島は、亞細亞大陸の沿岸山脈にして
 其の上半部を海面上に露せるものなれば、大陸に於ける
 が如き巨流を生ずること能はず。中には山脈と并行し、又
 は之を横斷するものに稍、大なるものあれども、多くは急
 流若くは細流に過ぎず。寧ろ之を河流と云はんよりも、溪流
 と稱すべきものなり。されども本邦は雨量夥しきを以て、

流域の廣からざる割合には、水量に富み、通舟灌漑の便に供すべきもの寡からず。特に稍大なる河流の流域は、土地肥沃にして、田圃よく開け、人家稠密にして、産業よく發達し、本邦中の樞要部たり。左に五大斜面區域に就きて重なる河流を述ぶべし。

オヨツク海斜面 ○ 區域狭小にして大河なし。

常呂川・網走川

太平洋斜面 ○ 十勝川・北上川・利根川・木曾川・吉野川・(阿波)等

は、域内の大河にして、流域廣く、舟楫灌漑の便に富めり。

其の他稍大なるものは左の如し。

阿武隈川・那珂川・荒川・富士川・大井川・天龍川・紀ノ川・物部川・

仁淀川・美々津川・二ノ瀬川

瀬戸内海斜面 ○ 大阪灣に注入する淀川の外、著しき大

河なし。稍名あるもの左の如し。

加古川・吉井川・旭川・高梁川・太田川・大野川

日本海斜面 ○ 本域には、著名の大河寡からず。即左に掲

ぐる諸川は、其の流域廣く、且地味肥沃なるものあり。

天鹽川・石狩川・岩木川・能代川・御物川・最上川・阿賀川・信濃川・

神通川・射水川・九頭龍川・江川・遠賀川

東海斜面 ○ 本域には、著しき大河あり。筑後川を主とす。

球磨川・川内川・淡水河

(總説) 本邦河流の利害を比較すれば左の如し

利

一、山岳高く雨量に富める故、水量豊にして如何なる細流と雖、灌漑の用に供せられざるもの殆無し。

不利

一、地勢急峻にして、且雨量夥しきを以て、もし雨期に際し、大雨一度到るときは、洪水忽、溪間を奔下し、堤防を決潰して、民害をなすもの多し。

二、水量割合に多きを以て、細流と雖舟筏を通すべきもの寡からず。

三、河流は大抵其の沿岸に平地を生じ、山岳重疊の間に天然の通路を開く。

四、急瀑激湍多きを以て、之を器械の動力に利用し、以て工業を興すを得べし。

湖沼 は河流と同じく通舟灌漑の利を與ふるのみならず。氣候を調和し、河源を涵養し、風致を添ふる等、其の効益決して小ならず。本邦の湖沼中、著明なるものは、悉く十州及び本州にあり。本州にては北日本に最多し。左に周回十里

二、洪水常に土砂を堆積して、河中に洲を生じ、通舟を妨ぐ、故に河系稍大なる河流と雖、汽船の航行に堪ゆるもの甚、寡し。

三、河流を容る、港灣は、土砂の堆積によりて漸次其の深さを減じ、天然の良港も遂に巨船の碇泊に適せざるに至る。

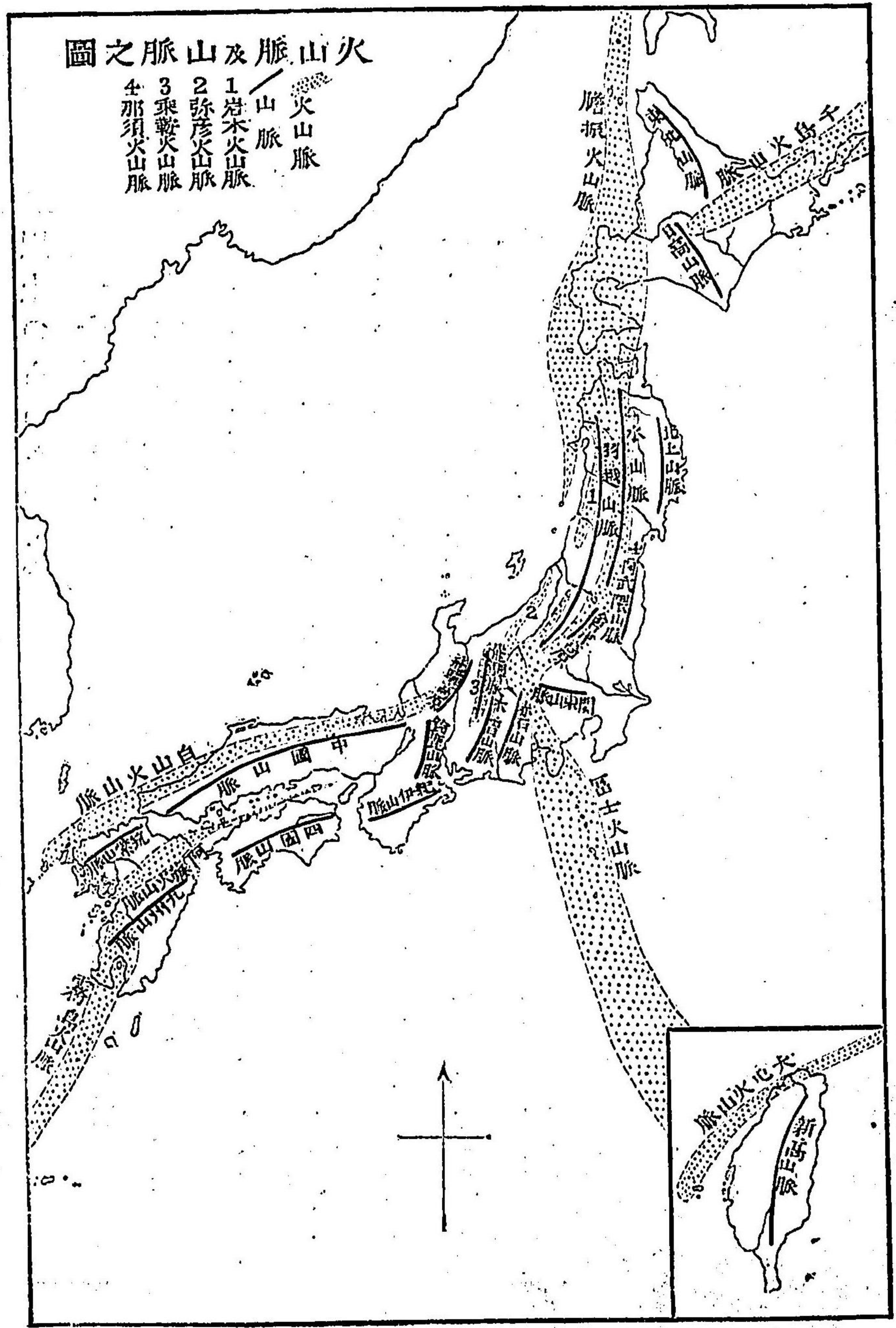
四、急瀑激湍は舟航を妨ぐ。

以上のものを擧ぐ。

十州島……………猿間湖・網走湖・楓蓮湖・屈斜路湖・洞爺湖・支笏湖
本州島北日本 小河原沼・十和田湖・猪苗代湖・霞ヶ浦・北浦・印旛沼・八郎潟
南日本 琵琶湖・中海・宍道湖

山脈及火山

●山脈及び火山脈 山脈は、交通流域氣候等を支配し、人事上の關係頗多ければ、其の所在及び高度等を知らざるべからず。抑吾が日本群島は、形狀恰弓の如く彎曲せる千島・本土・琉球の三列島より成り、之が脊梁をかせるは、樺太・崑崙の二大山系及び千島・霧島・富士の三大火山脈あることは、前に緒論に於て述べし處なり。而して、之等の三列島中千島・琉球の兩列島は、其の構造甚簡單なれども、本土列島は、數多の山脈相交錯し、且規模最雄大なり。故に左に本列島の重なる山脈を列記すべし。



樺太山系

蝦夷山脈 (本脈の中央以北は、高峻ならず、○中央以南は、四千尺乃至六千尺の高峯連立して、日高十勝の國境を塞げり)

北上山脈 (高原性にして、峻峻ならず。されども、秀峯早池峯山は、高六千尺に及ぶ)

阿武隈山脈 (高原性にして、著しき高山なく、三千尺以上に達するもの稀なり)

關東山脈 (西部特に甲武の境最高峻にして、六千尺以上の高峯からす。東部は、關東平野に向つて峻夷す)

分水山脈 (本脈は、多く大火山を噴起し、數千尺の高峯稀ならず火山なき處は低くして、三千尺以上に及ぶもの極めて寡し)

羽越山脈 (最上川横谷以北は邱陵地に過ぎず、但諸所に大火山を起せり。○最上川以南は高峻にして、六千尺内外の高峯寡からす)

崑崙山系

九州南部山脈 (中央以北は、一般に高峻にして、四五千尺内外の高峯帶結し、日向と肥後との境を塞げり)

四國山脈 (本脈は、六千尺以上の劔山を有すれども、概高峻ならず)

紀伊山脈 (本脈は、大和の南部最高峻にして、四千尺乃至五千尺の山岳帶結す)

赤石山脈 (中央以北には、一萬尺内外の高峯屏立し、中央以南も、亦六千尺以上の高嶺をなし、實に本邦第三の大山脈なり)

木曾山脈(中央以北は、五千尺乃至六千尺の連嶺をなし、秀峯駒岳は、九千尺以上に達す。)

筑紫山脈(一小山脈なるも、最高峯は三千尺餘あり。)

中國山脈(高原性にして、三千尺以上の高峯少し。大山は、高六千尺に近きも、火山なり。)

飛驒高原(群山起伏して、一定の軸なし。飛驒山脈其の東邊に屏立せり。)

飛驒山脈(本邦第二の大山脈にして、一萬尺以上の高峯を戴き、八千尺以上の連嶺をなし、又乗鞍等の大火山、本脈に沿ふて噴起す。)

新高山脈(臺灣山系の中軸をなし、本邦最大の連嶺にして、一萬尺内外の高峯、雲を抽きて屏立せり。)

火山脈 吾が邦は前に述べたる諸山脈の外に尙數多の火山脈を起し、本邦の地勢をして、益々崇高雄峻ならしむ。其の重なるものは、前の三大火山脈の外、那須火山脈・阿蘇火山脈之なり。那須火山脈は、十州の西部より起り、分水山脈に沿ひ、那須岳を起し、之より西南に折れて、富士帶火山脈に連接す。阿蘇火山脈は、温泉岳より起り、雄大なる阿蘇火

山彙を噴起し、うれより、四國の北部を過ぎて盡く。吾が邦は、此の如く火山脈に富み、世界有數の火山國なるを以て、從つて地震の災害を蒙りしこと、古來尠からず。又温泉の涌出多きこと世界に稀なり。

海流

●海流 本邦の近海は、頗る海流に富み、氣候・水産等に大なる影響を與ふるを以て、其の流域を詳にせざるべからず。其の重なる海流は、即ち日本海流・對馬海流・千島海流之なり。日本海流は、一名を黒潮と稱し、本邦の南海岸を流るゝものなり。對馬海流は、日本海流の一派にして、對馬海峽より日本海に入り、本州の北海岸を東北に駛走するものなり。之等は、所謂暖流にして、吾が國の氣温を高むる作用あれども、千島海流は、(一名親潮)千島諸島に沿ひ、本邦の東

岸を南流する寒流なれば、之に洗はるゝ地方の空氣をして、甚しく寒冷ならしむ。

●氣候 吾が國は、長き緯度の間に連亘して、南は少しく熱帯に入り、北は、殆ど寒帯に迫り、且、寒暖二流に洗はるゝを以て、處により、温度の差甚しきは、勿論なれども、概し温和にして、到る處殆ど人身に適せざるはなし。○雨量も處により大に異れども、概して豊多なること、温帯地方稀に見る處にして、六月の梅雨及び八九月の候、特に夥し。○風は、冬季に西北風多く、夏季に東南風を多しとす。特に八九月の頃は、年々颶風の害を蒙り、豪雨之に伴ふを以て、時に洪水漲溢し、堤防を決潰し、橋梁家屋を流失し、田野を荒廢し、人畜を死傷せしむること、珍からざるは甚痛むべし。

氣候

住民
人口
種族

●住民

人口 住民の總數は、約四千六百萬あり。之を吾が國の面積二萬七千方里に充つれば、一里四方、平均約一千七百餘人の割合に當り、人口の稠密なること、世界に稀なり。種族 帝國の住民は、馬來種なる臺灣の蠻民を除くの外、悉く黃色人種に屬すれども、容貌言語風俗等の異同により、更に之を區分するときは、四種族となる。大和種族、漢種族、臺灣蕃族、アイヌ種族是なり。○大和種族は、人口最多數を占め、氣質は、一般に忠勇にして、奉公の念慮深く、伶俐にして、進取の氣象に富むと雖、惜むらくは、稍輕佻にして、持重の心乏しきを缺點とす。但同種族中別に四十餘萬の琉球人あり。氣風は風俗と共に稍内地人と異なる處あり。(言語の内地は)

に古類す。○漢種族は、其の數約二百萬人あり。主として臺灣の北部及び西部に住す。もと清國福建省、廣東省等より移住せしものなれば、其の言語・風俗等は、故國と毫も異らず。男子は、辮髮し、女子は、纏足し、鴉片を嗜好する惡習あり。(但廣東人は、纏足せず。)○蕃族は、未精確なる調査なきを以て、其の實數を知る能はざるも約十萬を下らず。蕃族に數派の別あれども、何も純粹の馬來種に屬す。蕃族中、もと支那に歸化したるものを熟蕃と云ひ、否らざるものを生蕃と云ふ。熟蕃の言語・服裝等は、支那人と異なる處なし。生蕃は東部の山野に散居し、各派其の固有の風俗を守り、一般に支那人を敵視す。○アイヌ種族は、昔時本州にも繁延し、慄悍にして痛く大和種族に抵抗せしも、優勝劣敗の結果、漸次滅滅し、

教育

今や十州の山間に屏居し、僅に存するもの、約一萬七千に過ぎず。

教育 住民開化の程度は、教育の進否によりて、之を知ることを得べし。吾が邦は、明治初年泰西の教育法を輸入するや、爾來駸々として日に月に進歩し、現今東京帝國大學及び陸海軍大學を東京に、京都帝國大學を京都に置き、高等學校を東京・仙臺・金澤・京都・岡山・山口・熊本・鹿兒島に設く。其の他、各種の公私立専門學校は、一々枚舉するに違あらず。中學・師範等中等程度の學校は、各府縣に少くも二三校の設、あらざる處なく、多きは十校以上に及ぶ。小學校は、全國に普及し、寒村僻邑と雖、尙讀書の聲を聞かざるはなし。○此の他書籍の出版、新聞雜誌の發行甚盛にして、文運の

宗教

隆盛を助くる効頗大あり。(附錄學校系
統表參照)

宗教 吾が國人は、一般に宗教に冷淡なるものゝ如し。現今行はるゝものは、神道・佛教及び耶蘇教・天主教・新教・希臘正教等なり。○神道は、吾が國固有の祖先教なれども、信徒の數甚多からず。○佛教は、往時隆盛を極めしことあれども、今は昔日の如くならず。されども國民の多數は尙之を信仰せり。近時其の一派眞宗徒は、熱心に宣教を勉め、遠く海外にも布教せり。○耶蘇教は、布教の道盡さざるにあらざるも、信徒未多からず。就中希臘正教最微々たり。

(細說) 儒教は純粹の宗教と同視すべきものに非れども、稍之に類する處あり。其の吾が國人の心情行爲を支配する勢力は頗大なり。

政治

●政治

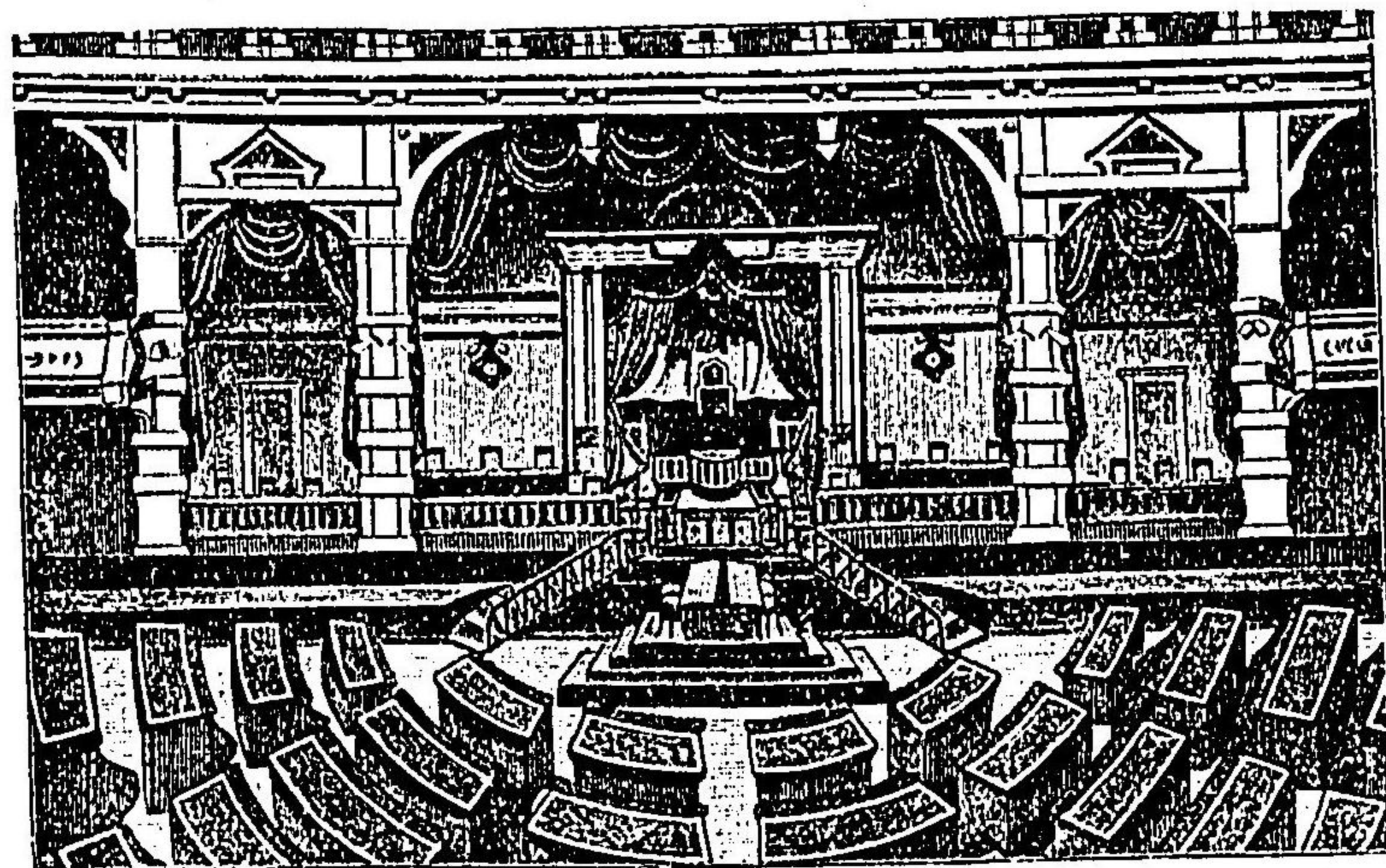
國體

國體 吾が國は、元來家族の團體が漸次に膨脹發達したる一帝國にして、天皇は、畏くも此の家族國の元首にましまし、天日嗣は、天祖の定め給ひし處、君臣の分は、神代の昔より明に判れ、皇統連綿として天地と共に窮りなし。是吾が國體の精華にして、萬國に其の類を見ざる處なり。

政體

政體 明治二十二年泰西諸國の制に倣ひ、東洋無二の立憲政體を制定し給へり。天皇は國の元首として國家統治の大權を總攬し給ひ、其の下に立法・行政・司法の三大機關を備ふ。

立法部は、之を帝國議會と稱し、貴族・衆議の兩院より成る。貴族院は、四種(皇族・華族・勅選・多額納稅者)の議員を以て組織し、衆議院は、各府縣に於て公選せられたる議員を以て組織せらる。



貴族院議場

行政部は、内閣及び内務・外務・大藏・陸軍・海軍・司法・文部・農商務・遞信の九省と、(皇室に宮内れども國務)之に屬する各地方廳とより成る。司法部は、大審院・控訴院・地方裁判所・區裁判所の四等の裁判所より成る。大審院は、至高の裁判所にして、之を東京に置き、控訴院は、

東京・大阪・名古屋・廣島・長崎・仙臺・函館の七所に設け、各府縣に一ヶ所、北海道に三ヶ所の地方裁判所を置き、其の下級の區裁判所の數は、全國に約三百餘あり。

三大機關の外に、天皇陛下の最高顧問府として樞密院あり。帝國の財政を監督する會計検査院あり。

兵備

兵備 帝國の兵備は陸海軍より成り、大元帥陛下之を統率し給ふ。臣民にして滿十七歳より四十歳に至るまでの男子は、必兵役に服する義務あり。兵役を分ちて常備・後備・補充・國民の四種とす。常備兵役を更に分ちて、現役・豫備の二とす。(現役は、陸軍三年、海軍四年、豫備役は、陸軍四年、海軍三年、後備役は、海陸軍共に五年とす) 陸軍は、兵種を分ちて、歩・騎・砲・工・輜重の五種とし、近衛師團を除き、全國を十二師管に區分し、各師管に一師團の兵を

配し、三都督部之を分管す。一師團を、更に分ちて二旅團とし、又一旅團を、更に分ちて二聯隊とあす。臺灣は、未管區なく、各師團の分遣兵を以て編成せる三個混成旅團を駐屯せしむ。此の他偏島要地に、警備隊及び要塞砲兵を備ふ。現今陸軍々人の數三十二萬人あり。(附錄陸軍兵配置表参照)

海軍は、帝國の沿岸を五海軍區に分ち、各區に一軍港あり。各軍港に鎮守府を置き、以て各區を管す。(現今設備の完成せるは四軍區のみ)

海軍々人の數二萬五千、軍艦の數五十九隻(二十三萬三千百餘噸)、水雷驅逐艇及び水雷艇四十五隻あり。(海軍區一覽表参照)

●生業 本邦の境域は、長く南北に連亘し、地勢又變化に富めるを以て、自各種の氣候を有し、天産物の種類甚多く、産出亦頗豊多なり。従て、國民の生業に種々あり。其の重なるものは、農業・林業・牧畜業・水産業・鑛業及び商業・工業等之なり。

生業

農業



宇治河の茶畑

るものは、農業・林業・牧畜業・水産業・鑛業及び商業・工業等之なり。

農業 本邦は、古來農業を重じたるを以て、斯業夙に大に發達し、今は北海道を除くの外、水利の及ぶ處、大抵鋤犁を加へざる處なく、従て生産力の大なる遙に他の生業に冠たり。農産物中主要な

るものは、米・麥・大豆等の穀類を始とし、茶・烟草・綿・麻・藍等之なり。米の産額最多きは、新潟縣にして、麥は、埼玉・茨城の兩縣を最とす。茶は、静岡縣及び京都府の産出最多く、臺灣の北部又主要の産地たり。烟草は、鹿兒島・茨城の諸縣に多く、綿は、大阪府及び愛知縣を推す。麻は、栃木・廣島・北海道の産最著しく。藍は、徳島縣を第一とす。甘蔗は、臺灣・琉球・四國に、甜菜は主として北海道に栽培せられ、何れも製糖の原料に供せらる。蠶業は、東山道に最多く行はれ、群馬・長野・福島諸縣特に盛にして、繭蠶卵紙の産出夥し。

林業 林業は、材木・薪炭を供給し、有用の副産物を與ふるのみならず、氣候を調和し、水源を涵養する等其の功頗大なれば、殖林は、國民の最意を用ふべき事業の一なり。吾が

林業

國は、氣候植物の生育に適するを以て、到る處森林に乏しからず。就中最著名なるものは、陸奥及び羽後山林・兩毛山林・木曾及び立山山林・天城山林・駿遠及び大和紀伊山林・日向山林等にして、廣きものは、十數里に亘り、松・杉・檜等の樹木・蕁櫨として、晝尙暗し。特に木曾の扁柏・陸奥の羅漢柏・羽後の杉林は、何れも廣大なる純林にして、本邦の三大美林と稱せらる。

牧畜業

牧畜業 本業は、他の生業に比し、其の發達甚遅けれども、近年漸肉食の風盛なると、乳汁の需用増加するに従ひ、牧養も亦漸次に改良進歩の途に向ひ、現今は各府縣到る處、大抵牧場及び屠場の設、あらざる處なく、馬は、奥羽九州に最盛に、特に南部は良種を産し、牛は中國に最多く、

水産業

但馬牛の名特に著はる。家禽の飼養は千葉縣を首とし、豚は琉球に多く、臺灣には豚及び水牛を産す。

水産業 本邦の沿海は、頗る水産に富み、鯷、鰹、鮪等は、黒潮の暖流に群遊し、鮭、鱒、鱈及び昆布等は、北海道四近の寒流に夥しく産し、海豹、鰻、鰩及獵虎等は、千島の近海に出没す。従つて沿岸到る處として、水産業の行はれざる處なし。然れども、多くは漁法尙幼稚にして舊式を墨守するに過ぎず。遠洋漁業の如き未微々として振はざるは甚惜むべし。本邦の製鹽は、重に瀬戸内海沿岸の地及び臺灣の西海岸一帯に行はる。前者は海水を煮て製し、後者は太陽熱に蒸發せしめて製する所謂天日製鹽なり。

鑛業

鑛業 鑛業は、漸次隆盛に向へり。鑛産中主要なるものは、

工業

石炭、銅及び硫黃にして、鐵及び金銀の産出は未多からず。石炭は産額最多く、内地の需用を充すに足るのみならず、年々海外に多額を輸出す。三池、筑豊、肥前（唐津、高島等）及び北海道石狩、常磐等の炭田は、其の主なるものなり。銅は、其の産額世界第三位にして、足尾、別子及び秋田縣諸鑛山の採掘最盛なり。硫黃の産出は、世界第二位にして、釧路の跡佐登陸奥の恐山、肥前の温泉、岳等に最多く産す。鐵は、巖手、島根等を首とし、金は、鹿兒島、新潟の諸縣及北海道に産す。銀は、秋田、岐阜の諸縣に多く、石油は、越後を第一とし、近時益盛大に向へり。

工業 吾が國人は、意匠と手工とに獨特の妙を有し、古來精巧の絶品を出すこと寡からず。近年は又歐米に倣ひ、大

機關を運用し、實用的の産物を多量に産出するに至り、斯業は頓に盛況を呈せり。工業品の重なるもの左の如し。織物に絹織物、木綿織、麻織等の別あれども、何も人生必需の料なるを以て、其の産出の多き他の工藝品に冠たり。就中絹織物の盛なるは、京都を第一とし、次は桐生、福井、足利なり。木綿織は、愛知最盛にして、和歌山、愛媛、埼玉之に亞ぐ。又絲類の産出は、近年著しく發達せり。生絲は、本邦輸出品中首位を占め、其の産出の最多きは、群馬、長野、福島、の諸縣にして、綿絲は、大阪、東京、岡山を主とす。

酒類は、兵庫縣を第一とし、醬油は、千葉縣を首とす。紙類中和紙は、高知最多く、洋紙は、東京、神戸を推す。燐寸は、兵庫を第一とす。陶磁器は、清水、粟田、燒山、九谷、燒加

交通業

瀬戸燒(尾張)、多治見燒(美濃)、有田燒、唐津燒(肥前)、薩摩燒等著名にして、産額亦最多く、其の三分一は海外に輸出せらる。此の他、疊表、莫産類は、大分、廣島、岡山の諸縣に多く、漆器は、本邦の特産物にして、和歌山、静岡、石川の諸縣に多産し、麥稈(トウモロコシ)、眞田は、岡山、愛知を首とす。

交通業 吾が國は、維新以後大に道路を修築し、新に郵便の制を設け、電信、電話を架設し、鐵道を布設する等、經營至らざる處なく、民間にも、漕運、鐵道等の事業頻に勃興し、今や内外の交通頗便利となれり。道路に、國道、縣道及び里道の別あり。國道、縣道は、共に主要なる道路なれば、平坦にして、概車馬を通せざる處なし。鐵道は、明治五年始めて京濱間に布設せられしより、以來、次第に増設せられ、現今

既に開通せるもの殆四千哩に達す。私設の重なる會社は、日本鐵道會社、山陽鐵道會社、九州鐵道會社之なり。
 海運 吾が國の湖沼は面積多くは、廣からず。又河流は、概土砂を堆積して、水底淺ければ、共に汽船の航行に適するもの甚稀れなり。されども、四周の海岸は、良港灣に乏しからざるを以て、海運は、大に開け、沿岸の航路は、もとより、海外への航路も漸次發達せり。日本郵船會社は、横濱を中心とし、西は、四日市、神戸、長崎、臺灣の諸港に至り、東は、萩、函館、小樽、根室等に定航し、海外線は、近くは、支那、朝鮮、西比利亞より、遠くは、濠州、北アメリカ、印度、ヨーロッパ等に定期の往復をなせり。大阪商船會社は、從來大阪を中心とし、主として、内海沿岸の諸港を往復せしが、近時、其の航路を

擴張し、臺灣、支那、朝鮮にも開航するに至れり。郵便は、明治四年の創設なるが、今は、如何なる僻邑と雖、信書を通せざる處なきのみならず、萬國郵便聯合に加盟し、外國との通信も不便を感せずるに至れり。○電信は、明治二年京濱間に設けられしを初とし、現時に至りては、全國の主要なる都邑には、到る處電信局の設けらざる處なく、海底電線によりて、本邦と重要なる諸島間を聯絡し、更に朝鮮及び支那等にも通ずるに至れり。

商業

商業 交通及び金融の機關漸次に整備に赴くと共に、内外の商業益、隆盛となれり。内國取引の最盛あるは、米、精酒、生絲、織物等にして、東京は、關東に於ける貨物集散の大市場をなし、大阪は、關西地方の中心市場たり。此の他、名古屋

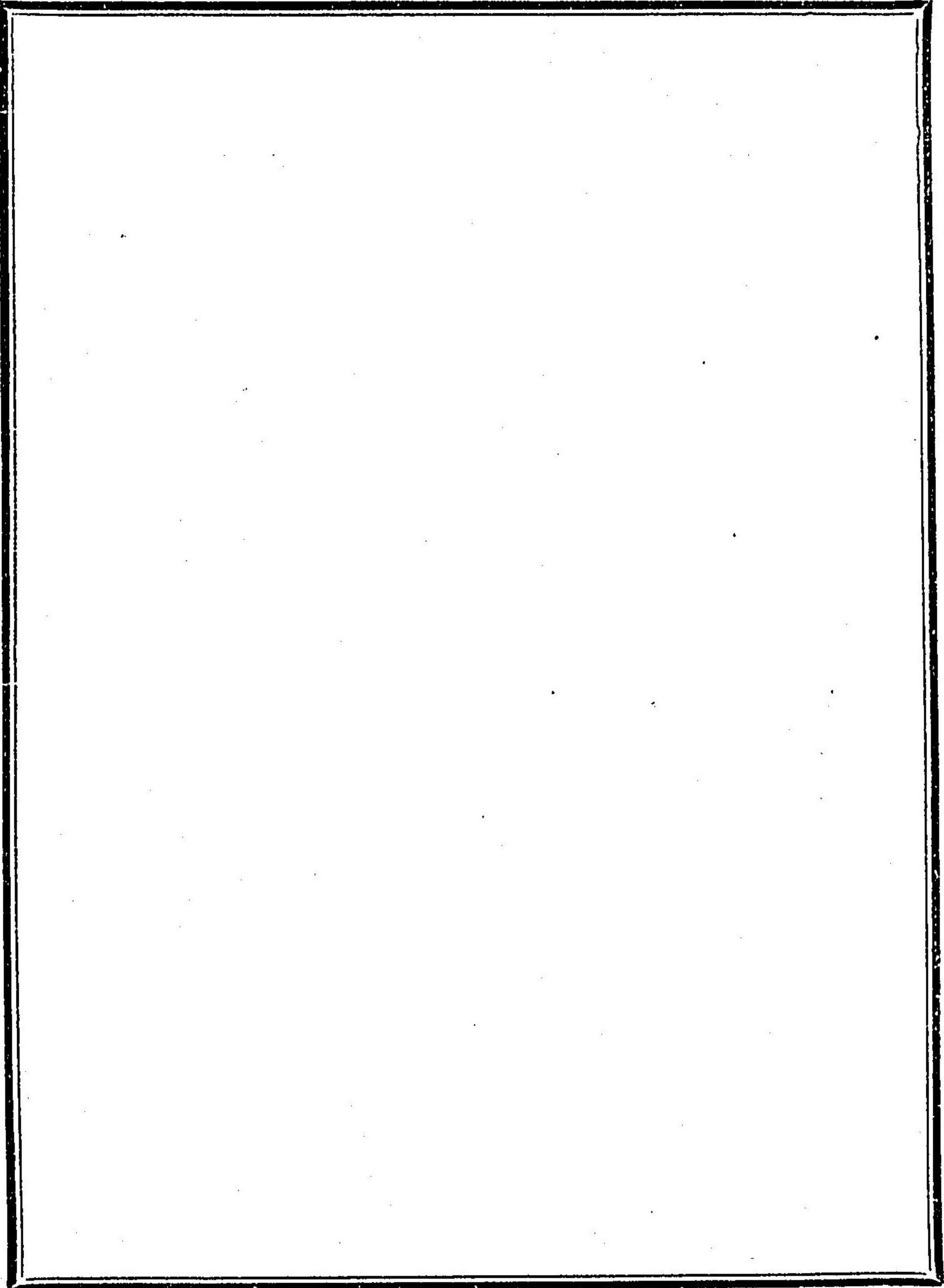
屋仙臺函館・金澤・廣島・德島・福岡等は、各地方商業の一中心
たり。

外●國●貿●易●は、漸次隆盛に向へり。貿易の最盛あるは、横濱・神
戸・長崎にして、大阪下、關口、津門、司函館之に亞ぎ、小樽・唐津・
佐須奈・三角・武豊・四日市・新潟・室蘭等又其の次ぎなり。臺灣
にては、淡水・安平・基隆・鹿港・打狗等を主とす。○現今吾が國
の重要なる輸出品は、蠶絲・綿絲・絹布・石炭・銅・茶・米・穀・綿布・燐
寸・麥稈・眞田等にして、輸入品は棉花・砂糖・石油・綿布・米・穀・金
屬及び金屬器具類等とす。而して吾が國の貨物を最も多く
購入するは北米合衆國にして、(香港・清國・佛蘭西・英吉利・英
領印度・朝鮮等之に亞ぐ)
我が國へ最も多く輸入するは、英國なり。(英領印度・北米合衆
國・支那・佛領印度等
之に)又年々貿易額増加の割合著しく、將來最も多望なるは
亞ぐ。

諸外國中清國に比すべきものあり。

中等新地理 日本之部 終尾

中等新地理
日本之部
附錄



畿道國一覽表 (舊時の行政區劃)

| | | | |
|--|----------------------------------|--|-------------------------|
| 畿道國 | | 畿道國 | |
| 畿道 | 畿道 | 畿道 | 畿道 |
| 山城・大和・河内・和泉・攝津 | 丹波・丹後・但馬・因幡・伯耆・出雲・石見・隱岐 | 伊賀・伊勢・志摩・尾張・三河・遠江・駿河・甲斐・伊豆・相模・武藏・安房・上總・下總・常陸 | 播磨・美作・備前・備中・備後・安藝・周防・長門 |
| 東山 | 山陰 | 東海 | 山陽 |
| 近江・美濃・飛騨・信濃・上野・下野・磐城・岩代・陸前・陸中・陸奥・羽前・羽後 | 紀伊・淡路・阿波・讃岐・伊豫・土佐 | 北陸 | 南海 |
| 若狹・越前・加賀・能登・越中・越後・佐渡 | 筑前・筑後・豊前・豊後・肥前・肥後・日向・大隅・薩摩・壹岐・對馬 | 北陸 | 南海 |
| 七國 | 八國 | 十三國 | 六國 |
| 北海 | 山陰 | 東山 | 南海 |
| 渡島・後志・石狩・天鹽・北見・膽振・日高・十勝・釧路・根室・千島 | 丹波・丹後・但馬・因幡・伯耆・出雲・石見・隱岐 | 近江・美濃・飛騨・信濃・上野・下野・磐城・岩代・陸前・陸中・陸奥・羽前・羽後 | 紀伊・淡路・阿波・讃岐・伊豫・土佐 |
| 十國 | 八國 | 十五國 | 六國 |

附錄 畿道國一覽表

道廳府縣一覽表 (現今の行政區劃)

| 府縣名 | 官廳所在 | 管 | 域 |
|------|------|----------------------|---|
| 北海道廳 | 札幌區 | 北海道全部 | |
| 東京府 | 東京市 | 武藏の一部、豆南七島、小笠原諸島 | |
| 京都府 | 京都市 | 山城、丹後、丹波の一部 | |
| 大阪府 | 大阪市 | 河内、和泉、攝津の一部 | |
| 神奈川縣 | 横浜市 | 武藏の一部、相模 | |
| 兵庫縣 | 神戸市 | 攝津の一部、丹波の一部、但馬 | |
| 長崎縣 | 長崎市 | 肥前の一部、豊前、對馬 | |
| 新潟縣 | 新潟市 | 越後、佐渡 | |
| 埼玉縣 | 浦和市 | 武藏の一部 | |
| 千葉縣 | 千葉市 | 安房、上總、下總の一部 | |
| 茨城縣 | 水戸市 | 常陸の一部、下總の一部 | |
| 群馬縣 | 前橋市 | 上野 | |
| 岩手縣 | 盛岡市 | 陸奥の一部、陸奥の一部、陸前 | |
| 福島縣 | 福島市 | 磐城の一部 | |
| 宮城縣 | 仙台市 | 陸奥の一部、磐城の一部 | |
| 長野縣 | 長野市 | 信濃 | |
| 岐阜縣 | 岐阜市 | 美濃、飛騨 | |
| 滋賀縣 | 大津市 | 近江 | |
| 山梨縣 | 甲府市 | 甲斐 | |
| 静岡縣 | 静岡市 | 遠江、伊豆(豆南七島を除く)、駿河、三河 | |
| 愛知縣 | 名古屋市 | 尾張、紀伊の一部、志摩 | |
| 三重縣 | 津市 | 紀伊の一部 | |
| 奈良縣 | 奈良市 | 大和 | |
| 栃木縣 | 宇都宮市 | 下野 | |
| 徳島縣 | 徳島市 | 阿波 | |
| 香川縣 | 高松市 | 讃岐 | |
| 愛媛縣 | 松山市 | 伊豫 | |
| 高知縣 | 高知市 | 土佐 | |
| 福岡縣 | 福岡市 | 筑前、筑後、豊前の一部、豊後 | |
| 大分縣 | 大分市 | 豊前の一部、豊後 | |
| 佐賀縣 | 佐賀市 | 肥前、肥後 | |
| 熊本縣 | 熊本市 | 肥後 | |
| 宮崎縣 | 宮崎市 | 日向 | |
| 鹿児島縣 | 鹿児島市 | 薩摩、大隅 | |
| 沖縄縣 | 那覇市 | 琉球 | |
| 總督府 | 臺北府 | 臺灣澎湖諸島 | |

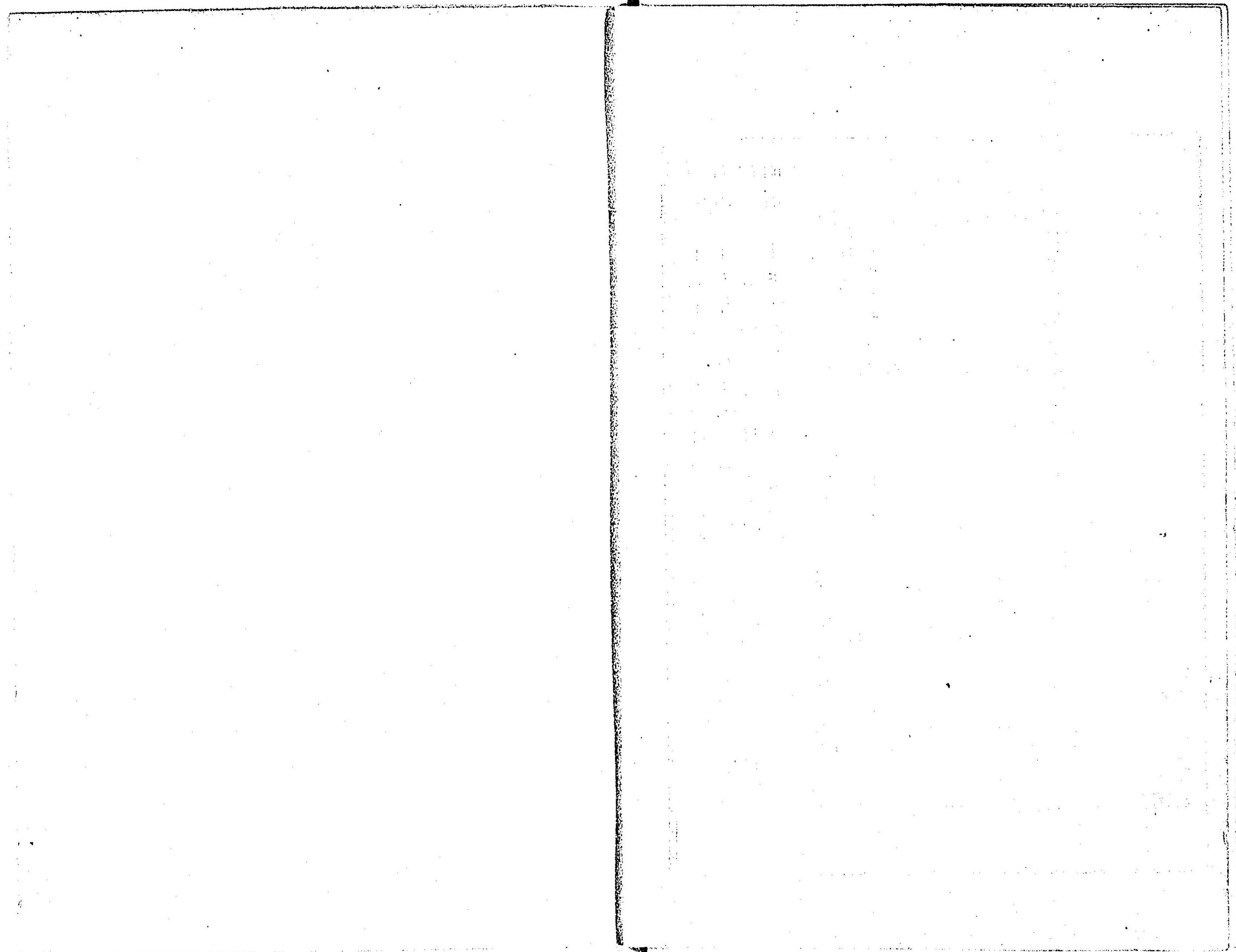
| | | |
|------|------|----------------|
| 青森縣 | 青森市 | 陸奥の大部 |
| 山形縣 | 山形市 | 羽前、羽後の一部 |
| 秋田縣 | 秋田市 | 羽後の一部、陸奥の一部 |
| 福井縣 | 福井市 | 越前、若狭 |
| 石川縣 | 金澤市 | 加賀、能登 |
| 富山縣 | 富山市 | 越中 |
| 鳥取縣 | 鳥取市 | 伯耆、因幡 |
| 島根縣 | 松江市 | 出雲、石見、隠岐 |
| 岡山縣 | 岡山市 | 美作、備前、備中 |
| 廣島縣 | 廣島市 | 備後、安藝 |
| 山口縣 | 山口市 | 周防、長門 |
| 和歌山縣 | 和歌山市 | 紀伊の大部 |
| 徳島縣 | 徳島市 | 阿波 |
| 香川縣 | 高松市 | 讃岐 |
| 愛媛縣 | 松山市 | 伊豫 |
| 高知縣 | 高知市 | 土佐 |
| 福岡縣 | 福岡市 | 筑前、筑後、豊前の一部、豊後 |
| 大分縣 | 大分市 | 豊前の一部、豊後 |
| 佐賀縣 | 佐賀市 | 肥前、肥後 |
| 熊本縣 | 熊本市 | 肥後 |
| 宮崎縣 | 宮崎市 | 日向 |
| 鹿児島縣 | 鹿児島市 | 薩摩、大隅 |
| 沖縄縣 | 那覇市 | 琉球 |
| 總督府 | 臺北府 | 臺灣澎湖諸島 |

陸軍兵配置表

| 都督部 | | 師團 | | 旅 | | 團 | | 隊 | | 步 | | 兵 | | 聯 | | 隊 | |
|-----|--------|-----|-----|--------|-----|-----|--------|-----|-----|--------|-----|-----|--------|-----|-----|--------|-----|
| 號 | 司令部所在地 | 番 | 號 | 司令部所在地 | 隊 | 號 | 司令部所在地 | 隊 | 號 | 司令部所在地 | 隊 | 號 | 司令部所在地 | 隊 | 號 | 司令部所在地 | 隊 |
| 近衛 | 東京 | 第一 | 第一 | 東京 | 第一 | 第一 | 東京 | 第一 | 第一 | 東京 | 第一 | 第一 | 東京 | 第一 | 第一 | 東京 | 第一 |
| 東 | 東京 | 第二 | 第二 | 東京 | 第二 | 第二 | 東京 | 第二 | 第二 | 東京 | 第二 | 第二 | 東京 | 第二 | 第二 | 東京 | 第二 |
| 仙 | 仙臺 | 第三 | 第三 | 仙臺 | 第三 | 第三 | 仙臺 | 第三 | 第三 | 仙臺 | 第三 | 第三 | 仙臺 | 第三 | 第三 | 仙臺 | 第三 |
| 旭 | 旭川 | 第四 | 第四 | 旭川 | 第四 | 第四 | 旭川 | 第四 | 第四 | 旭川 | 第四 | 第四 | 旭川 | 第四 | 第四 | 旭川 | 第四 |
| 弘 | 弘前 | 第五 | 第五 | 弘前 | 第五 | 第五 | 弘前 | 第五 | 第五 | 弘前 | 第五 | 第五 | 弘前 | 第五 | 第五 | 弘前 | 第五 |
| 名 | 名古屋 | 第六 | 第六 | 名古屋 | 第六 | 第六 | 名古屋 | 第六 | 第六 | 名古屋 | 第六 | 第六 | 名古屋 | 第六 | 第六 | 名古屋 | 第六 |
| 大 | 大阪 | 第七 | 第七 | 大阪 | 第七 | 第七 | 大阪 | 第七 | 第七 | 大阪 | 第七 | 第七 | 大阪 | 第七 | 第七 | 大阪 | 第七 |
| 金 | 金澤 | 第八 | 第八 | 金澤 | 第八 | 第八 | 金澤 | 第八 | 第八 | 金澤 | 第八 | 第八 | 金澤 | 第八 | 第八 | 金澤 | 第八 |
| 姫 | 姫路 | 第九 | 第九 | 姫路 | 第九 | 第九 | 姫路 | 第九 | 第九 | 姫路 | 第九 | 第九 | 姫路 | 第九 | 第九 | 姫路 | 第九 |
| 廣 | 廣島 | 第十 | 第十 | 廣島 | 第十 | 第十 | 廣島 | 第十 | 第十 | 廣島 | 第十 | 第十 | 廣島 | 第十 | 第十 | 廣島 | 第十 |
| 熊 | 熊本 | 第十一 | 第十一 | 熊本 | 第十一 | 第十一 | 熊本 | 第十一 | 第十一 | 熊本 | 第十一 | 第十一 | 熊本 | 第十一 | 第十一 | 熊本 | 第十一 |
| 第六 | 熊本 | 第十二 | 第十二 | 熊本 | 第十二 | 第十二 | 熊本 | 第十二 | 第十二 | 熊本 | 第十二 | 第十二 | 熊本 | 第十二 | 第十二 | 熊本 | 第十二 |

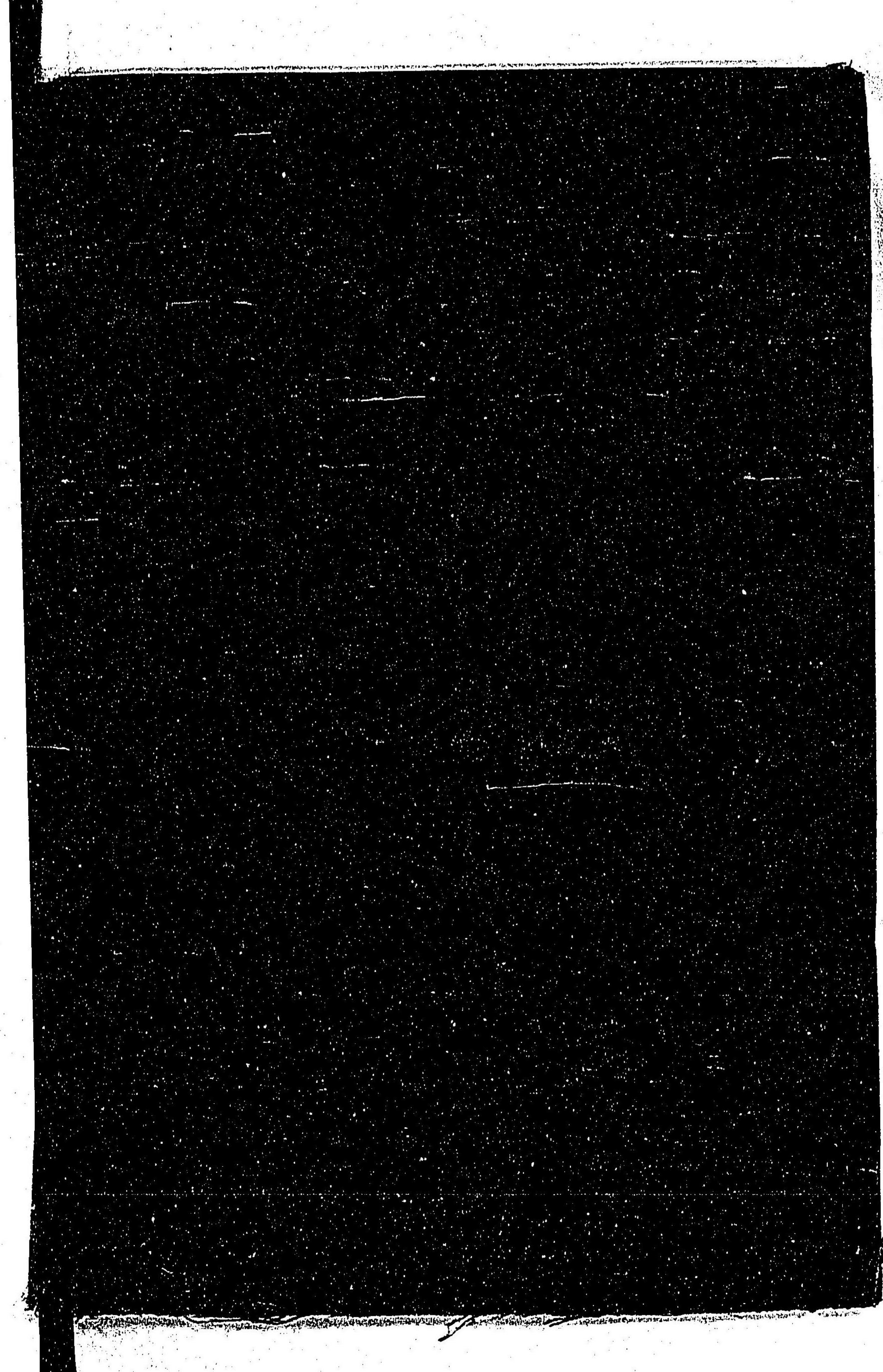
海軍區

| 部令 | 部 | | 區劃 | 軍港 | 所管 | 海里軍程 |
|-----|-----|-----|--|------------|--------|-------|
| | 第十一 | 第十二 | | | | |
| 第九 | 九 | 龜 | 紀伊國南牟婁、東牟婁郡界より石見、長門國界に至り、又筑前、豊前國界より九州東海岸に沿ひ日向國南那珂、南諸縣郡界に至る海岸海面及四國の海岸海面並に内海 | 安藝國安藝郡吳港 | 吳鎮守府 | 二、〇六七 |
| 第十 | 十 | 松 | 陸中國南九戸、北閉伊郡界より紀伊國南牟婁郡界に至る海岸海面及小笠原島の海岸海面 | 相模國三浦郡横須賀 | 横須賀鎮守府 | 一、〇五七 |
| 第十一 | 十一 | 小倉 | 筑前、豊前國界より九州西海岸に沿ひ日向國南那珂、南諸縣郡界に至る海岸海面及豊前、對馬、沖繩諸島の海岸海面 | 肥前國東彼杵郡佐世保 | 佐世保鎮守府 | 一、四九七 |
| 第十二 | 十二 | 久留米 | 石見、長門國界より羽後、陸奥國界に至る海岸海面及隠岐、佐渡の海岸海面 | 丹後國加佐郡舞鶴港 | 舞鶴鎮守府 | 一、〇五五 |
| 第十三 | 十三 | 大熊 | 北海道、陸奥國及陸中國北九戸、南九戸兩郡の海岸海面 | 膽振國室蘭郡室蘭港 | 室蘭鎮守府 | 二、二七六 |



93

59



022120-001-7

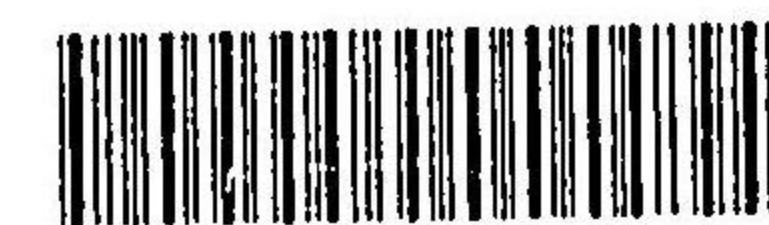
93-59

中等新地理

小野 正美/著

M34-35

ADA-0504



93
59